

さいかわ 犀川遊水地事業～事業の概要～

事業概要

<目的>

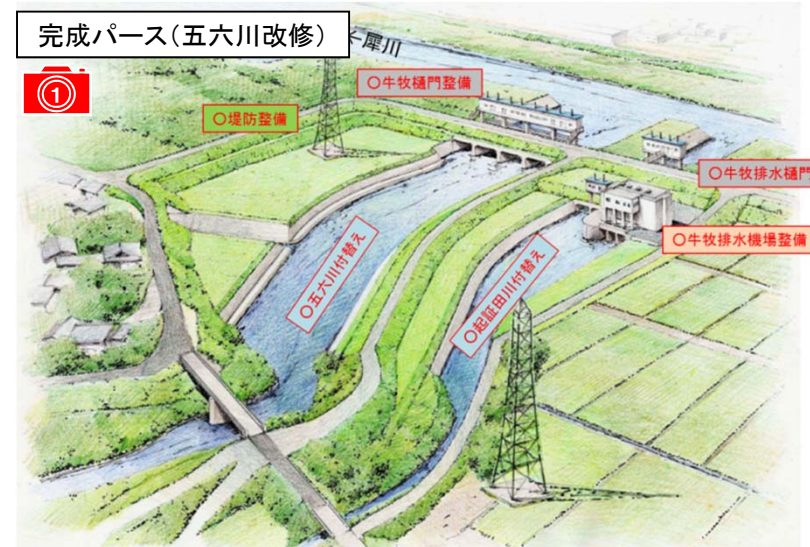
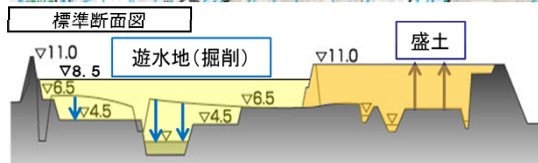
- ◆犀川流域の内水被害の軽減
- ◆長良川本川への洪水負荷軽減

このために、

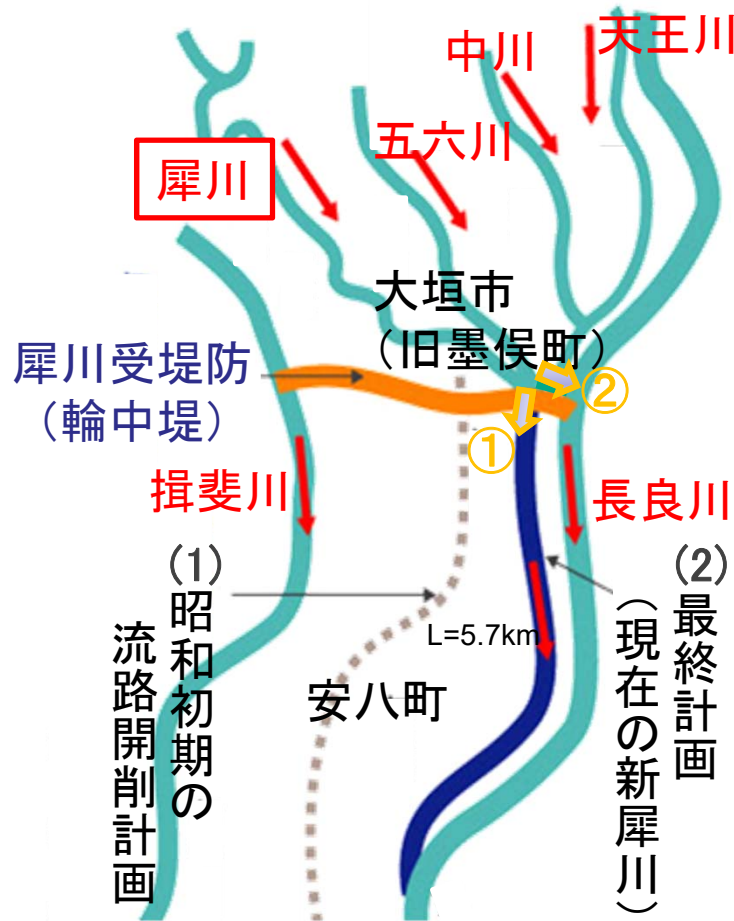
- ・貯水池の容量の増大 (従前140万 m^3 →計画230万 m^3)
- ・排水機場の整備
- ・遊水地内の河道整備 を行う

<着手>
昭和56(1981)年度

<事業区域> 約100ha
遊水地 約70ha
盛土 約30ha
(土地区画整理事業と連携)



犀川遊水池に貯留した河川水を犀川統合排水機場(国)及び犀川第三排水機場(国)で効率的に長良川に排水するために、天王川分水路整備を実施し、平成30年度に完成しました。



<背景>

犀川流域では頻りに浸水被害があったため、江戸・明治期以降、住民は内水排除のため、輪中堤中央から下流へ流路開削を要望。しかし計画のたびに、下流が反対して頓挫。

<第一次犀川事件(昭和4(1929)年)>

昭和初期に岐阜県が開削を計画(1)、下流は大反対。住民同士が1000人超の乱闘・流血騒ぎとなり、軍隊が出動し制圧。これにより、流路は中央部ではなく長良川沿いへ計画変更(2)され、昭和7～11年に改修(現在の新犀川)。

<第二次犀川事件(昭和13(1938)年)>

新犀川への排水は、①犀川調節樋門で行うこととなったが、昭和13年の出水時、樋門操作の際、再度騒動となり、更に樋門が故障し操作不能となった。そこで犀川から直接長良川にも排水できるよう、②犀川溢流樋門^{いっしりゅう}を設置。

第一次犀川事件



②犀川
いっしりゅう
溢流樋門

①犀川調節樋門

墨俣一夜城から
南側の眺望

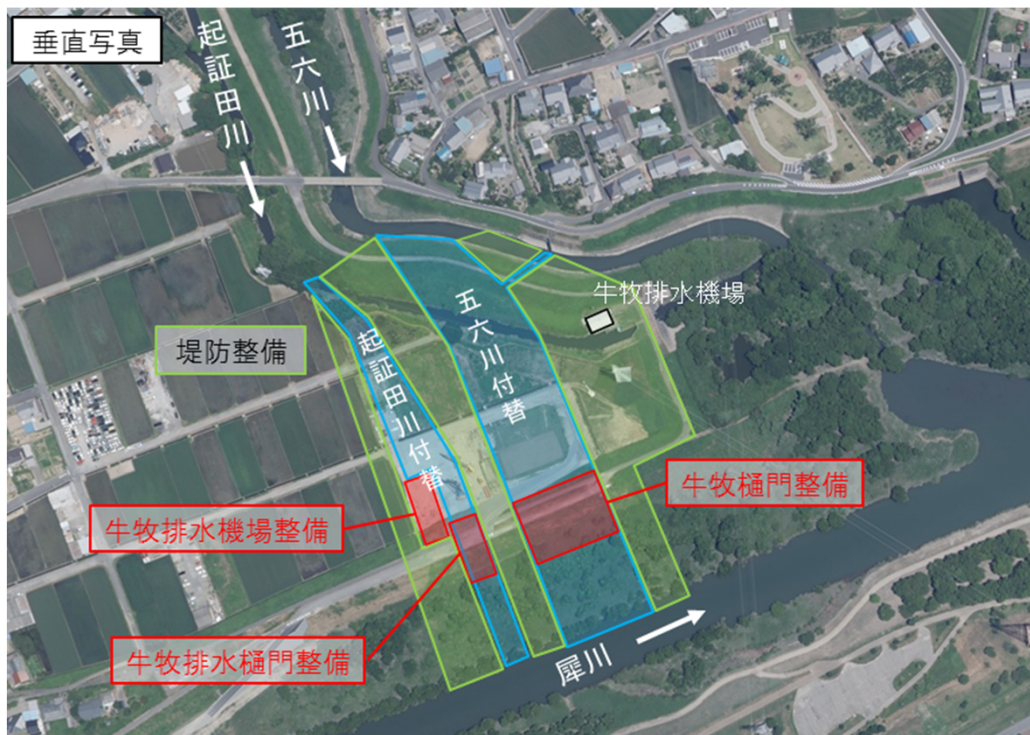
犀川遊水地の周囲堤及び犀川統合排水機場等の
てんのうがわ
 断続運転を軽減させるため、天王川分水路を整備。
 (平成31年3月完成)

排水の仕組み

犀川水位 T.P.	3.2 m	5.5 m	8.0 m	長良川水位 >犀川水位
③排水 機場 (長良川へ)			→	
②犀川 溢流樋門 (長良川へ)	→			
①犀川 調節樋門 (新犀川へ)	→			

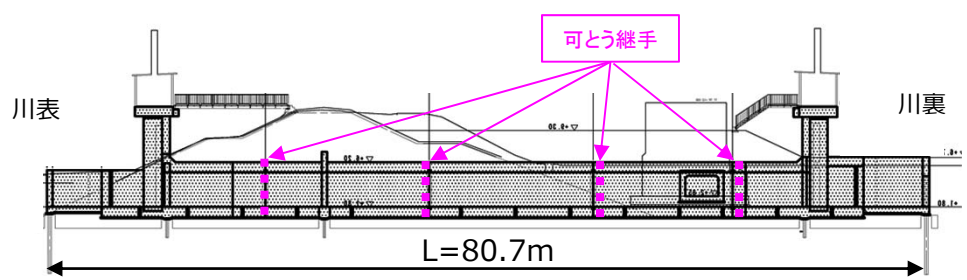


○犀川遊水池事業の一環として、長良川支流の犀川に流れ込む河川断面(五六川、起証田川)を
 拡大するとともに、牛牧排水機場、牛牧樋門、牛牧排水樋門及び築堤護岸の整備を実施。



牛牧排水樋門断面図

牛牧排水樋門、牛牧樋門は、樋門と堤防周辺の安全性を確保するために、可とう継手や可とう矢板を用いることで堤防の挙動に追従することが可能な柔構造樋門となっています。



《整備状況(令和元年7月撮影)》

